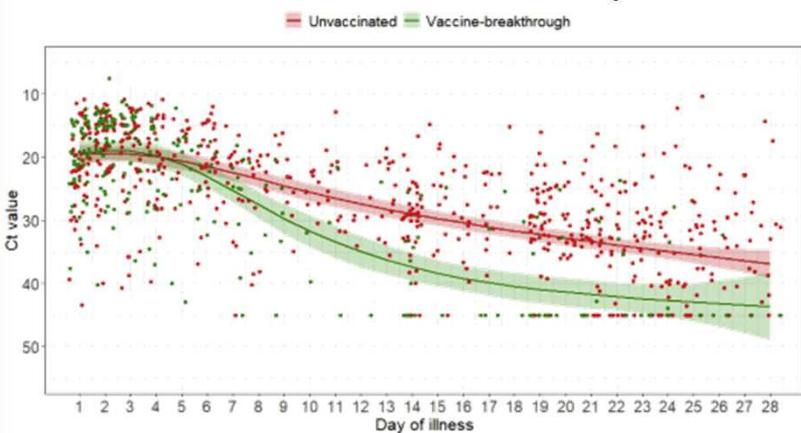


3回目のワクチン接種に向けて 学校医が皆さんの質問や不安にお答えします

変異株の拡大が徐々に進んでいくなかで、3回目のワクチン接種を心待ちにしている学生も多いと思います。そこで3回目のワクチンなどに関する皆さんの疑問を解消できるように統括学校医からご説明します。

「ワクチンを接種しても感染する」とがある」と聞きました。これは、ワクチンが利かなくなつたということなのでしょうか。

統括学校医…違います。ワクチンを接種していても感染する例（ブレイクスルー感染）があることはその通りです。しかし感染をした場合でも、接種した場合は、**発症してから8日目程度でCt値が増大することが、研究により明らかになっていきます**（図）。この値は、PCR反応でウイルスを検出した際の増幅サイクル数を示しています。ウイルスのRNA量が多いほど早く検出できますので、サイクル数も小さくなります。つまり、この値が小さいほど、「ウイルス量は多く、感染力も高い」ことを示します。下図ではワクチン接種群（緑）が5日目のあたりで非接種群（赤）と分かれはじめ、8日目時点では著明な差がみられるようになっていきます。つまりワクチン接種することで、感染した場合も早期回復を期待できます。



図：発症後日数とCt値の関係 (Clin Microbiol Infect. 2021 Nov 23;S1198-743X(21)00638-8; doi: 10.1016/j.cmi.2021.11.010. から引用)

3回目の接種で、副反応が出る可能性は高いですか。
統括学校医…少しづつ3回目の接種が始まり学内では15〜20%の方から発熱、頭痛、接種部位の痛み等の報告がありました。それでも3回接種により全年齢層で重症化率等が下がるという報告もあり学生の皆さんにも利点が大きいと考えます。大学からの案内は先になります。自治体から接種券が届いて地域で接種する機会がある場合はぜひ接種をご検討ください。

～ 一歩先の学修基盤づくり～ 教育DXを進めています

東京医療保健大学では、一歩先の学修基盤づくりを進めています。当面ウィズコロナが進むことも踏まえ、社会の様々な場でDX (Digital Transformation) という言葉が用いられるようになりました。これは**デジタル技術を活用し社会をよりよい姿に変革**することを指し、看護や栄養など医療保健分野でもその動きが強まっています。本学は「一歩先の医療保健の創造」を大学ビジョンに掲げていますので、これに沿って医療人教育においてもDXを進めていく方針です。

先般、文部科学省の「スキームDプロジェクト」においてデジタル技術を活用した学生中心の新しい学びのアイデアを紹介し合う会があり、本学からも西村礼子准教授(医療保健学部看護学科)がピッチ・アクターとして登壇しました。各登壇者のアイデアは下記に掲載されています。

■文部科学省「スキームD」ホームページ
<https://scheemd.mext.go.jp/idea/>

学生とともに創る遠隔授業

意見・提案にお答えします

意見・提案①：対面かオンラインか選択できるようにしていただきたいです。通学にかかる時間を課題をやる時間に当てたいです。

意見・提案②：対面授業の場合対面かオンラインか選択できず、体調不良でオンライン受講した場合も欠席で扱われるのは理解できない。

お返事…同趣旨のご意見を複数の方からいただきました。学生の皆さんに「対面・遠隔の選択制」を望む声が一定程度あることは、大学としても真摯に受け止めます。

より双方向性の高い授業づくりをさてウィズコロナ3年目を迎えるにあたり、ハイブリッド型の授業も少しずつ成長していく必要があると考えています。特に百名以上が一斉に受講する講義など、オンラインの活用でZoomのチャット機能や投票機能を取り入れ双方向性を確保できる

授業もあります。これは教職員のスキルも必要なので多くの授業で実現できるように教職員研修に努めます。他方、少人数演習など対面で行うことが望ましい授業もありますので、メリハリが重要であると考えています。

体調不良時は保健室へ連絡を出席の判定は科目担当教員が行います。ただし、なぜ症状等ではそれが**新型コロナウイルス感染症ではないと除外診断**することは困難です。そのため感染が疑われるものとして出席停止の措置をとることがあり、この場合は欠席扱いになりません。体調不良時は、自己判断せずに全キャンパスとも保健室に連絡してください。

今後も皆さんの意見や提案を歓迎します。

